

フィールドの芝生管理業務一覧(広島サッカースタジアム)

業務内容	仕 様	備考
刈り込み	・サッカーの使用に適した高さで、フィールド全体を均一に刈り込むこと。 ・芝の密度を低下させないよう季節や芝種に応じて刈り高を設定すること。 ・刈り込み後、芝生面全体にサッチングリールやブラッシングをかけて、芝の刈りカスを回収すること。 ・刈り取った芝は、まとめて指定の場所に集積し、適宜、廃棄物として処分すること。	・年間の刈り込み回数は120回程度(目安)
散 水	・芝生面全体に均一に散水すること。 ・芝の生育状況や天候に応じて、適宜散水頻度を設定すること。	・1回あたりの散水量は5～10mm/m²(目安)
施 肥	・芝の生育状況に応じて、速効性の化成肥料や液体肥料、緩効性の肥料成分を含む資材を使い分け、芝生面全体に均一に肥料散布すること。	・年間の施肥回数は20～30回程度(目安)
除 草	・雑草の繁茂を防ぐため適宜除草すること。 ・除草作業はできる限り除草剤を散布せず、なるべく手作業で行うこと。	
農薬散布	・病虫害が発生しやすい梅雨前に、殺菌・殺虫剤の予防散布を実施すること。 ・病虫害の発生が見られた際には適宜、殺菌・殺虫剤を散布し、被害が蔓延しないようにすること。 ・オーバーシード実施後や冬期のシート養生期間中は病害が発生しやすいため、殺菌剤を予防散布すること。	
更新作業	・基盤土壌の排水機能低下を防ぐため、エアレーションやバーチカルカットなどの更新作業を実施すること。 ・エアレーション実施後に、スーパーなどを用いて、コアおよびサッチを回収すること。 ・更新時期や方法は、芝の生育状況に応じて適宜設定すること。	・排水性指標は透水速度300mm/hr以上(目安) ・更新頻度は年5～10回程度(目安)
目砂散布	・更新作業実施後に目砂を散布すること。 ・目砂散布後は芝生面に不陸が生じないよう、ブラッシングなどを行い砂を芝生にすり込むとともに、転圧をかけること。	・散布回数は年5回程度(目安) ・散布量は1回あたり2mm厚程度(目安)
補修作業	・使用によって芝が擦り切れたエリアや芝の密度が低下したエリアにはナーセリーから切り出した芝で補植、張り替え作業を行うこと。 ・南側ペナルティーエリア周辺など日照不足や使用によって品質の低下が予測されるエリアでは、あらかじめ苗植えによって芝を補う作業を施すこと。プレーに支障を来すほど密度が低下した場合は、外部より購入した芝を用いて張り替えること。	外部購入を含む部分補修は年間約1,500m²を想定
オーバーシード、及び切り替え作業	・常緑のフィールドを提供するため、9～10月にかけて寒地型芝を播種すること。 ・芝の生育を促すために、播種前に暖地型芝を低刈りする(高さ10～15mm目安)とともに、播種後、種子のすり込みや目砂散布、散水を十分に施すこと。 ・3～5月にかけて、一時的に刈り高を下げたり、バーチカルカットを入れるなど、寒地型芝から暖地型芝への切り替え作業を行うこと。	・播種量は40g/m²程度(目安)
シート養生	・低温による芝の品質低下を防ぐために、冬季(Jリーグ閉幕期間中)は適宜芝用養生シートを敷設すること。 ・なお、養生シート敷設の際は、蒸れで芝が痛むのを防ぐために、立枯病防除用の殺菌剤を予防散布するとともに、2週間に1回程度、シート外して芝生を乾かすこと。	保温効果を高めるために必要に応じて養生シートを二重にするなどの対応をすること。
試合の準備	・プロサッカー利用時は、試合前にラインマーカースを目印としてラインを引くこと。 ・サッカーゴールの設置、撤去を行うこと。 ・試合中(ハーフタイム)及び試合終了後に、試合中に生じたディポット(スパイクによる芝の剥がれなど)の埋め戻しなど補修作業を行うこと。	

配置人員	資格要件等	備考
現場責任者	芝管理技術者の資格を有する者でスポーツターフの維持管理経験者を配置すること。	
指導管理責任者	1級造園施工管理技士の資格を有し、スポーツターフの豊富な施工実績のある者を配置すること。	